

2022年度

# 岐阜県青少年赤十字

## 研究推進モ二夕一校活動事例集



▲健康・安全 避難所運営(桑原学園の実践より)



▲奉仕・福祉 5年生に車いす体験を教える6年生  
(本巣市立弾正小学校の実践より)



▲国際理解・親善

日本語初期指導の様子(可児市立土田小学校の実践)



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

岐阜県支部



2022年は青少年赤十字は創設100周年

## 目 次

はじめに

岐阜市立鶉小学校	… P.	1
岐阜市立長森西小学校	… P.	2
羽島市立桑原学園	… P.	3
山県市立伊自良中学校	… P.	4
瑞穂市立西小学校	… P.	5
本巣市立弾正小学校	… P.	6
笠松町立笠松小学校	… P.	7
岐南町立北小学校	… P.	8
大垣市立中川小学校	… P.	9
垂井町立府中小学校	… P.	10
池田町立宮地小学校	… P.	11
郡上市立相生小学校	… P.	12
郡上市立那留小学校	… P.	13
郡上市立大中小学校	… P.	14
郡上市立北濃小学校	… P.	15
美濃加茂市立伊深小学校	… P.	16
可児市立土田小学校	… P.	17
七宗町立神淵小学校	… P.	18
七宗町立上麻生小学校	… P.	19
八百津町立八百津小学校	… P.	20
御嵩町立上之郷小学校	… P.	21
土岐市立妻木小学校	… P.	22
恵那市立恵那西中学校	… P.	23
下呂市立竹原小学校	… P.	24

## はじめに

青少年赤十字(以下 JRC)では、子どもたち一人一人が「人道」「博愛」の心を大切に、人類の幸せや世界のために尽くせるような人間になるための取組として、『健康・安全』、『奉仕』、『国際理解・親善』の3つを実践目標として掲げ活動しています。

多くの教育現場においては、上記の実践目標と重なる内容の学校経営や教育実践が進められていると思います。日本赤十字社岐阜県支部におきましては、それらの活動を支援させてもらうと共に、子どもたちに青少年赤十字で大切にしていることを身に付けてもらえることを目的に、例年、研究推進モニター校の募集を行い、今年度は24校を指定し支援させていただいています。

昨年度同様、本年度においても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初計画していた内容が十分にできない状況でした。しかし、そういった状況にも関わらず、各研究推進モニター校においては、創意・工夫をしながら健康・安全、奉仕、国際理解・親善といった内容と関わらせながら研究実践を推進していただきました。

また、子どもたちが活動する際には「気づき」、「考え」、「実行する」という青少年赤十字の態度目標を意識して、人道・博愛の精神を具現化する取り組みにも努めていただきました。

本事例集では、子どもたちが多くの人と出会い、学び、様々な体験や発見等を通して、豊かな心を育み、たくましく成長していく実践が綴られています。豊かな心とたくましさを身につけた子どもたちが、これからも人道、博愛の精神を持ち続け、様々な場で活躍してくれることを願っています。

この事例集が、多くの学校において「豊かな心を育む教育活動」推進の一助となれば幸いです。

本事例集をまとめるにあたり、貴重な実践成果をご紹介いただいたモニター校の校長・園長先生方にお礼を申し上げますと共に、ご多用の中、原稿の執筆等にご協力いただきました先生方には心より感謝を申し上げます。

なお、JRC は令和4年に創設100周年を迎えたところですが、令和5年度から新たな100年を目指し、今までの助成金事業(防災教育推進校、研究推進モニター校、JRC100周年推進事業)の内容等を見直し、教育現場の先生方が活用しやすい事業になるように、**JRC未来応援プロジェクト事業**として新たに実施していくこととしていますので、引き続き青少年赤十字活動への御指導、御協力をよろしくお願いいたします。

令和5年4月1日

岐阜県青少年赤十字指導者協議会  
日本赤十字社岐阜県支部

## 1 岐阜市立鶉小学校

学 校 名	岐阜市立鶉小学校 (校長 小出 直弘)
活動の種類・単位	命を尊重し、安心安全に過ごすことができるよう児童・保護者・地域と連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	特別活動、総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

「気づき、考え、実行する」営みを通して自分を磨き、「ゆたかでたくましい鶉の子」を育成する。

### 2 主な活動内容

#### (1)交通事故を防止する(全校)

交通事故を防止するために、低学年・中学年・高学年に分かれて、交通安全教室を行った。低学年は、主に安全な歩き方を、中・高学年は、安全な自転車に乗り方について学習した。警察署の方や地域の交通安全支部長さん等の指導のもと、交差点での安全確認や正しい通行の仕方の実地訓練等を行った。また、長期休みの前には、生徒指導の話だけではなく、警察署の方にも交通事故防止の話をしていただき、飛び出しなどを行わないようテレビ放送で啓発を行った。



#### (2)自然災害に備える(5年:Dig、全校:垂直避難)

5年生の総合的な学習の時間に、地域の防災について外部講師を招いて学習した。児童は、過去に起きた災害の写真から、自分たちの地域が浸水害に遭遇しやすいことを認識した。その後、ハザードマップをもとにしながら、自分の住んでいる地域の浸水害の状況を調べ、地図に記したり、命を守るための避難所などを確認し記録したりした。さらには、学校で学んだことを家庭に伝え広めた。



全校では、浸水害が起きた際の垂直避難行動の訓練を行った。放送機器が使えない状況も想定しながら避難指示と安全確認を行う訓練も行った。

#### (3)Jアラートに備える(全校)

学級活動や朝の活動の時間に、教頭が、南海トラフ地震や弾道ミサイルの説明をテレビ放送で行った。そして、いつ非常事態が起きても対処することができるように身の守り方を指導した。児童らは、2種類のJアラート音を聞き分け、聞こえた警告音から状況を判断して身を守る行動の訓練を行った。また、別日に予告無しの訓練も行い、学んだことが活かして行動できるようにした。児童らは、突然の放送にも落ち着いて判断し、地震・ミサイルの両方に即した安全な行動を取ることができた。



子供たちに付いた力	命は尊いものであること、日頃から安全安心に対する危機管理意識をもち、時と場において適切に判断して、よりよく行動する力を身に付けることができた。
効果	自分や自分の地域に起こりうる災害について知ることができた。加えて、最近の社会情勢に応じたJアラート発令時の身の守り方等にも対応することができた。
今後の方向	青少年赤十字の「気づき、考え、実行する」の合言葉を大切にしながら、自助・共助ができるように、正しい知識と危機管理意識、規範意識を高めていけるようにしていきたい。

## 2 岐阜市立長森西小学校

学 校 名	長森西小学校（校長 大西 一隆）
活動の種類・単位	「誰もが住みやすい町」を意識した、福祉につながる体験学習
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

#### 「守ろう地域 広げよう福祉の輪」

本校は、教育活動に関わってくださる高齢者の方が多く、児童にとって高齢者の方は身近な存在である。人生の先輩である高齢者の方について知ることで、誰もが安心して暮らせる地域社会について考え、行動できることを目指して学習を行った。

### 2 主な活動内容

高齢者、体や目が不自由な方、妊婦など、様々な立場の人が、身の周りには暮らしている。その方たちにとって住みやすい地域社会であるかを考えた。施設の作りや道路などの物理的な面だけでなく、その方たちを理解することで、自分たちに何ができるかを考える活動を行った。

#### ・車いすバスケ 秋田啓選手の講話

パラリンピックに出場した秋田選手のプレーを見て、講話を聞いた。できない部分ではなくできる部分を探し、伸ばしていく大切さに気付くことができた。また、選手と共に自走体験をすることにより、違いを超えて人と関わる楽しさを体験することができた。

#### ・『高齢者 認知症サポート講座』

地域の社会福祉士の方を招いて、認知症サポート講座を受講した。認知症は、脳の機能の低下により、社会生活に支障をきたす状態であることを学んだ。そして、具体的にどのような心理状態になり、それがどのような行動となって表れるかを、寸劇を交えて学んだ。認知症への理解を深めることで、相手の気持ちに寄り添った支援について考えることができた。

#### ・高齢者体験活動

高齢者疑似体験セットやアイマスクを利用して、当事者役や介助役を行った。手、脚、目にセットを装着し、物を読んだり色を見分けたりする体験、文字を書く体験、階段を移動する体験などを行った。思うように動かすことができない手や脚の体験を通して、高齢者の方の暮らしの大変さを知ることができた。また、自分の祖父母を思い起こし、「ゆっくり歩いているのは、膝が思うように動かないからなんだ」「自分も、その速さに合わせて歩くようにしたい」など、自らの関わり方について振り返るきっかけとなった。



▲膝を固定し、重りをつけて疑似体験

また、介助役も体験することで、安心感を与える声のかけ方や介助の仕方について考えを深めた。そして、誰に対しても互いの立場を尊重して関わることの大切さに気付くことができた。

子供たちに付いた力	私たちの周りには様々な立場の人がいることを理解することができた。また、互いに安心して共生していくための声のかけ方や、行動について考えることができた。
効果	偏見のない、相手を尊重した行動の大切さに気付くことができた。また、見て見ぬふりをせず、自分から行動に移すことが、未来を担う自分達の役割であることに気付くことができた。
今後の方向	広い視野で、仲間、地域、世界を見つめ、自ら行動する人材の育成を目指し、福祉や奉仕活動を推進する。



### 3 羽島市立桑原学園

学 校 名	羽島市立桑原学園（校長 中村 純子）
活動の種類・単位	防災・減災にかかわる実践的・体験的な活動を全校児童生徒で学んだ
教育課程上の位置付け	1～2年：学級活動， 3～9年：総合的な学習

#### 1 活動テーマ

学校・家庭・地域の三者で学び合い、気づき、考え、実行する防災学習

#### 2 主な活動内容

(1) 防災・減災を学ぶ日 令和4年11月24日（火）

①ねらい 実践的・体験的な活動により災害を自分事として捉え防災減災への意識付けを図る。また、昨年度の学びを生かすことで、地域防災人として避難所運営やできることに自ら取り組む。

②活動内容 ア：被災地から学ぶ（東日本大震災で甚大な被害を受けた気仙沼市で学んだ職員の講話

イ：感染防止対策を踏まえた避難所運営（昨年度の学びを生かし、区画割り、パーティションや簡易ベッドの設営を行う。

ウ：備蓄倉庫の炊き出し釜、ハイゼックス袋を用いた炊飯体験、防災食の付け分け体験

エ：広告による紙皿食器作り、新聞紙による防災スリッパづくり、三角巾による応急処置

オ：地震体験車体験，理科教師による液状化現象の実験体験

カ：防災カルタ，防災トランプ，防災すごろく，重ねるハザードマップ，災害避難カード

キ：防災グッズ・パネル展示

ク：備蓄倉庫見学，発電機稼働体験

③協力団体 羽島市防災研究会，日本赤十字岐阜支部



▲ 避難所運営



▲ 防災食付け分け

(2) 防災の日 毎月28日（濃尾地震の日）を「防災・減災の日」と定め、時

期に応じた防災・減災に関わる話を聴く。過去の教訓，危険を知り，その危険が生じる理由や防ぐための方途・備えについて学ぶ機会を年間を通じて位置付け，防災・減災に対する意識を高めたり，災害を科学的に学ぶ。

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害は、いつ起こるか分からないからこそ、日頃からの備えが必要であることを実感できた。また、液状化現象の仕組みなど、実験を通して科学的に学ぶことができた。</li> <li>・備えることにより、災害の被害をできる限り抑えることができる。（減災）災害が発生した時には、地域の一員として、ただ救助を待つ人になるのではなく、皆と協力してできることに向かう（地域防災人）ことが大切であると理解することができた。</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、羽島市防災研究会と協働して実践的・体験的な活動を盛り込んだことで、日頃の備えの必要性をより実感できた。また、保護者の参観の位置付けにより学校における防災・減災教育の発信や、家庭での備えについて啓発の機会となった。</li> <li>・コロナ禍における感染症対策を踏まえた避難所運営等，繰り返すことで，児童生徒自身でできることが確実に増え，地域防災人としての自覚が深まり，充実感も得られた。</li> <li>・炊き出し訓練では，学校の防災備蓄倉庫の炊き出しかまどを使用し，職員が担当した。非常災害時に，戸惑うことなく扱うためのよい事前の機会となった。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域と協働して継続して行うことで，戸惑うことなく避難所運営ができる力を高められるようにする。また，多様な立場の人々が避難することを想定した訓練や，子どもたちの意見を生かした活動等を盛り込むことで，主体的な学びの場としていきたい。</li> </ul>

#### 4 山県市立伊自良中学校

学 校 名	山県市立伊自良中学校（校長 伊藤 泰介）
活動の種類・単位	健康安全、奉仕（福祉）
教育課程上の位置付け	特別活動、総合的な学習

##### 1 活動テーマ

自他の命の大切さを知り、自ら考え動くことができる生徒の育成

##### 2 主な活動内容

###### (1) 校区の小学校児童、保育園園児や地域の方を招いた行事

晴れ渡った青空の下、体育祭を実施した。今年度は、伊自良中学校校区の2校の小学校5、6年生も参加し、学年学校の枠を越えての体育祭となった。小学生競技の玉入れでは、中学生がかごの土台を支えたり、合同種目の綱引きでは小中学生が一緒に競技に参加したりした。

また、校区の伊自良保育園の園児の皆さんも招待した。園児の皆さんは、小中学校の児童生徒が活動する様子を元気に応援してくれた。地域に住むお年寄りの皆さんも招待し、テントの下で熱中症対策をしながら子どもたちの元気な姿を参観していただいた。コロナ禍以前よりもさらに縦のつながりを大切にしたい体育祭となった。



###### (2) 岐阜希望が丘特別支援学校とのふれあい活動

本校と岐阜希望が丘特別支援学校との交流事業は、30年以上続く大切なふれあい活動である。交流の中で互いを知り親交を深め、共に助け合う精神や相手を思いやる心を育ててきた。しかし、昨年度に続いてコロナ禍においては、直接行う交流活動ができない状況が続いている。

そこで、今年度はリモートで2度の交流活動を行なった。2年生が計画・運営の中心となる第2回の交流会では、事前に岐阜希望が丘特別支援学校より先生をお招きして、学校の様子や学んでいる子どもたちの学習や生活の様子についてお話していただいた。共に活動を楽しめるようにするためには、どのような工夫があるとよいか、ヒントを教えていただいた。機材を準備し、両校の生徒や教師がリモートで打ち合わせを行い、誰にとっても見やすく聞きやすいと同時に気持ちが通じ合えるような交流を企画した。当日は歌を一緒に歌ったりジェスチャーでゲームをしたりするなど、両校の生徒が共に楽しめる会をつくりあげることができた。



###### (3) 命を守る取組

本校では、自他の命の大切さを知り、自分がどのように動くことが命を守ることににつながるのかを考え学ぶ場として命を守る訓練を位置づけている。また、防災講座を設定し生徒の防災に関わる意識を更に高めるとともに知識も身に付けている。

9月上旬に、「命を守る訓練」と「防災講座」を実施した。命を守る訓練では、弾道ミサイル発射時の確認と大雨による土砂崩れを想定した垂直訓練を行った。

防災講座は、山県市防災センターから、防災士の武藤季忠さんを講師に派遣していただき、感染症拡大防止のため、オンラインによる講座となった。動画やプレゼン資料を示しながら、具体的に分かりやすくお話してくださった。

避難所開設時に、中学生がリーダーとして力を発揮することの大切さについても話題にされ、中学生に求められることのも具体も教えていただいた。自分たちの住む伊自良地域の災害の特性や防災の在り方について理解を深める機会となった。



子供たちに付いた力	・自他の命の大切さを理解し、状況を分析しながら適切な判断と行動をとる力 ・相手を思いやる心とやさしさ、一歩踏み出して行動できる力
効果	・学校や地域の一員としての自覚が高まり、自分ができることを主体的に考え、取り組むこと
今後の方向	・コロナ禍を経て、対面での交流や共に活動する行事を、地域の老人福祉施設や地域の事業所等に広げ充実させる。

## 5 瑞穂市立西小学校

学 校 名	瑞穂市立西小学校 (校長 奥田 紳二)
活動の種類・単位	自然災害に備えて、命と生活を守る方法を考えた 5年生児童を中心に、ゲストティーチャーを招いて学習をした
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

「地震・防災」自分・家族・地域の人たちの命を守る方法を考えて実践する

### 2 主な活動内容

①私たちが住む瑞穂市で予想される自然災害について知ろう (4月 5年生)

- ・東京海上日動保険の出前授業(水害・土砂災害編、地震・津波編の2講座)を実施した。これらの自然災害発生の仕組みを知り、どんな被害が起こるのかを学んだ。



▲ 班ごとに避難所開設時の係活動を発表

②大地震発生時の危険を見つけよう (9月 5年生)

- ・岐阜大学 清流の国 防災減災センターの村岡治道先生の出前講座を実施した。大地震発生直後の被害の実情について映像を通して学び、教室と図書室を例に大地震発生時の危険個所とその対策を予想することを通して身近な危険への対策を考えた。

③被災時の生活を考える・避難所生活に必要なことを考える (12月 5年生)

- ・名古屋みどり災害ボランティアネットワークの岡田雅美様の講話から、大地震が発生したら実際にどんな被害が起こるのか写真で詳しく説明を聞いて、避難所とはどんなものかを考えた。そして、避難所生活を余儀なくされたときにおこる問題を予想して、必要な係を組織・運営する中で、どんなトラブルや問題が発生するかを予想し、自分たちでできることを考え発表交流をした。また、瑞穂市市民協働安全課の職員の方から防災備蓄倉庫について詳しく説明を受けた。さらに、被災時に実際に避難所となる西小学校体育館を使用して、「避難用テントの組み立て」「ダンボールベッドの組み立て」「保存食の実食」などの体験を行った。これらを通して避難所生活の不便さや身近なものを利用して緊急事態に対応する手立てを学んだ。また、そして、災害時であってもできる限り生活を維持するために、普段から何が必要なのかを考えた。



▲ 避難所生活のためのテント組み立て

- ・1月に実施した第6回命を守る訓練において、5年生の児童が全校児童に向けて身を守る姿勢(「だんごむしのポーズ」)のよりよい姿についての啓発的発表を行い、上記②③の学習の成果として発信することができた。

子供たちに付いた力	・日常から災害に備える心と危険を予知する視点 ・防災や被災時の生活に対して、子ども一人一人が自らの力でできそうなことに取り組んでいこうとする意識
効果	実生活の中で、自分の力で防災・減災に向けてできることを考える子どもたちが育った。
今後の方向	持続的に継続実施できるよう、活動内容や環境整備を進めていく。



## 6 本巢市立弾正小学校

学 校 名	本巢市立弾正小学校 (校長 香田 みどり)
活動の種類・単位	福祉や健康安全など持続可能な世界を目指して、考えをまとめた。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

わたしたちがつくる 持続可能な世界

### 2 主な活動内容

持続可能な開発目標（SDGs）をもとに、持続可能な世界を創るために、自分たちができることは何かを考えていくために、その基盤となるものの見方や考え方を学年の発達段階に応じた内容で活動を進めた。

6年生は、「共に生きる」をテーマに、福祉について学んだ。

まず、認知症サポーター養成講座を受講したり、独居老人への温かい手紙を書いたり、高齢者疑似体験をしたりすることで、年配の方へのよりよい接し方や関わり方を学んだ。2月には、北方警察署の指導のもと、お年寄りを詐欺から守る啓発活動に参加し、温かい言葉をかけてメッセージを伝えた。

また、地域の授産施設の協力を得て、障がいのある方がどのように働いているのかを見学させていただくことで、バリアフリーの世界を創ることの大切さを学んだ。

5年生は、JAや地域の農家の方の指導で、年間を通して米作りについて学んだ。田植えや収穫の体験活動、稲作の方法や稲の種類などを調べる学習、おいしいご飯の炊き方の実践など広がりのある学習を進めることができた。

4年生は地域の防災について、3年生は本巢周辺の伝統農業である柿について、高学年同様に地域の方の指導を交えて学習を深めていった。

低学年も生活科の中で、地域の方を講師に招くなどして、身近な地域の人と触れ合い、学習を進めることができた。

2月には、「弾正フェスタ」と称して、学んだことを発表する活動を行い、保護者やお世話になった地域の方にもその様子をご覧いただくことができた。



▲ 5年生に車いす体験を教える6年生



▲ 田植えを体験する5年生

子供たちに付いた力	健康安全や福祉といった視点から、知らなかったことをもっと調べてみたい、学んだことを伝えてみたいといった探究心や向上心が養われた。また、様々なことを調べ、まとめることで、情報活用能力や情報処理能力が高まった。
効果	6年生では、社会福祉協議会の方の指導を受け、福祉に関する知識を学ぶだけでなく、どのようにその知識を広げたり、活用したりするとよいかを深く考えることができた。これにより、自分や家族のことだけでなく、周りに生活している様々な人々のことを大切にしようとする人権意識が高まった。その結果として、例えば、登下校時の見守りをしてくださるボランティアの方への挨拶が増えたり、相手を気遣う言葉が増えたりした。他の学年においても、学習に関わってくださった方を通して、周りの人たちへの感謝の気持ちが高まった。
今後の方向	今年度の実践に留まることなく、もっと多様な方や地域、国際社会への理解を深めていく事ができるような学習を展開していくよう計画していきたい。

## 7 笠松町立笠松小学校

学 校 名	笠松町立笠松小学校 (校長 樋口 敦子)
活動の種類・単位	健康・安全 奉仕 (福祉)
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

生命(いのち)と健康を大切に、みんなの幸せを考えて、豊かな心でやりぬく子の育成

### 2 主な活動内容

- (1) JRC委員会の児童が中心となって、ペットボトルキャップ回収、アルミ缶回収を始めとする JRC活動に全校で取り組んだ。アルミ缶を回収した収益金を活用して、今年度は、笠松町福祉会館へ暖房器具 (パネルヒーター) 1台を寄贈した。回収したペットボトルキャップは、NPO法人 曖 (あい) を通じてリサイクル業者に引き渡し、再生原料に活用された。



▲アルミ缶・ペットボトルキャップ回収

- (2) 一人一鉢の花栽培の活動を全校で取り組んだ。5年生が育てた「小菊」と6年生が育てた「葉牡丹」は、地域でお世話になっている方々や、公共施設へ贈り、日ごろの感謝の気持ちを伝えた。4年生は、ウサギの飼育活動を通して、生命の大切さを学んだ。けがをしたウサギについて、獣医師に児童が問合せ、ケージでの飼育方法の指導を受けた。



▲「小菊」苗の植え替え(5年)



▲育てた「葉牡丹」を町長へ贈呈(6年)

- (3) 児童の体力向上のために、縄跳び運動の補助具 (ジャンピングボード) を自作した。縄跳び運動に関心低学年から、二重跳びの練習に活用し、冬季の体力向上を図った。
- (4) 4年生が「防災教室」を実施し、防災士からDIGの演習を通して身近な防災について学んだ。6年生は、防災のため、教室の棚に自作のカーテンを取り付け、物が落下しても被害が少なくなるよう工夫した。

子供たちに付いた力	人とのつながりに感謝するとともに、自分たちの活動が世の中のために役立って立っているという有用感を味わわせることができた。
効果	伝統的な活動であり、活動の意義を理解して取り組んでいる児童が多い。
今後の方向	2の(1)(2)は、伝統的に継続している活動であり、児童・保護者・地域にも浸透している活動である。今後も引き続き活動していく予定である。

## 8 岐南町立北小学校

学 校 名	岐南町立北小学校 (校長 川松 雅史)
活動の種類・単位	健康・安全活動を全校で取り組む
教育課程上の位置付け	特別活動 (命を守る訓練)・総合的な学習の時間 等

### 1 活動テーマ

自分のいのちは自分でまもる

### 2 主な活動内容

- (1) 災害時を想定した避難訓練を年に3回以上実施する。
  - ・様々な非常災害に対応した「命を守る訓練」を実施した。  
地震・火災・洪水 (垂直避難)・ブラインド訓練
- (2) 専門家や岐南町の防災担当を招いて、防災・減災授業を行う。
  - ・地域のハザードマップや想定される災害状況を知る。
  - ・災害に備える町の取組や準備について知る。
  - ・自分たちにできることを考え、準備をする。
- (3) 教職員・保護者を対象に、消防署員によるAED講習を実施する。
  - ・PTA家庭教育委員を中心に保護者に呼びかけ、教職員・保護者によるAEDの使用を含めた救急救命講習を実施した。
- (4) 学校の体育館や校区内各地区で行われる岐南町防災訓練参加の啓発等に取り組む。
  - ・岐南町総合防災訓練への参加啓発。
  - ・訓練時、避難所となる学校側からの地域への施設利用に関わる共通理解。



▲「命を守る訓練(ブラインド訓練)」



▲岐南町総合防災訓練

子供たちに付いた力	・災害発生時に、状況に応じて判断して、自ら考え行動する力
効果	・緊急地震速報を用いるなど、時間と場、状況を変えながら訓練を実施したことにより、その場の状況をもとに、どのように身を守るとよいか判断する力の育成に結び付いた。
今後の方向	・自分たちが生活する環境について、想定される災害などについて気付き、防災・減災の在り方を考え、行動に移そうとすることができるようにする。 ・身の回りの環境や人とのつながりを知り、自分たちに何が出来るかを考え、仲間や家族、地域とともに環境を作り出そうとすることができる。



## 9 大垣市立中川小学校

学 校 名	大垣市立中川小学校
活動の種類・単位	国際理解・親善について全校で取り組んだ
教育課程上の位置付け	教科、総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

英語でのコミュニケーション力を伸ばし、国際社会で活躍できる児童の育成  
～英語教育と国際理解教育を通して～

### 2 主な活動内容



▲ 姉妹校であるオーストラリアのコーフールド小学校の児童との交流

- ・全校児童が学年の発達段階に応じて、オーストラリアの姉妹校との交流活動（オンライン）を行う。外国の文化・習慣・遊びなどを知るとともに、日本の文化・習慣・遊びを分かりやすく伝え、国際理解を深める
- ・英語科・英語活動及び英語のモジュール学習で、生活科や総合的な学習、行事等とのつながりを生かした教材を開発し、コミュニケーション力を高める授業を実践する。

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科横断的に授業を進めることで、児童のより主体的な学びにつなげることができた。</li> <li>・コーフールド小学校の児童との交流のために、他国の衣食住や文化などについて進んで調べ、理解した上で、日本のどんなことを伝え、どんな質問をしようか考えることができた。</li> <li>・対話がより伝わりやすくなるように、タブレットに絵や写真を載せ、授業の中で活用することができた。</li> <li>・モジュール学習では、実践的な英語を体験できるように、ALTを中心に日本にはない外国特有のイベントや外国の物語を紹介した。「クリスマス」や「ハロウィン」については、内容が国によって違うことを理解することができた。そして、「もっと外国の文化について学んでみたい」「そんな考えもあるのだな」という思いをもつことができた。</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスに在籍している外国籍の児童に対して、偏見をもたず、どんな言語で文化があるのか積極的に聞く姿が見られた。</li> <li>・外国の文化を知ることで、日本の文化のよさを再確認し、大切にしていこうとする姿が見られた。</li> <li>・外国のよさを知り、諸外国の文化や生活様式を調べることに對して、意欲・関心を高めることができた。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの成果が上げられたので、姉妹都市との交流は、来年度も引き続き行っていきたい。</li> <li>・音声と文字のつながりに気付くモジュール学習の番組づくりに努め、楽しく参加でき、実践的な英語を体験できる場を作っていきたい。</li> <li>・インターネットによる交流活動をさらに工夫し、外国の文化などの体験的理解や日本の文化を発信できる場の設定と活動の工夫をさらに進めていきたい。</li> </ul>



## 10 垂井町立府中小学校

学 校 名	垂井町立府中小学校 (校長 奥田 直己)
活動の種類・単位	福祉について、地域の人との交流を通して学び、学びを発信する
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

共に生きる ～府中の仲間と福祉～

福祉に携わる方と触れ合うことを通して、福祉に関心をもって、かかわり方を学び、「皆が住みよい府中」について発信する

### 2 主な活動内容

#### ①車いすバスケットボール銀メダリスト秋田啓選手との交流活動

～バリアフリーについて、障がい者が困らないために自分たちができること、車いすバスケ体験～  
4年生以上の児童全員が秋田選手の指導の下、競技用の車いすで車いすバスケットボールを体験した。その後、4年生児童が事前に調査した校内のバリアフリー化されていないところを秋田選手に見せ、どのような改善方法があるかを考えた。社会のバリアフリー化や学校の状況とともに、府中小の施設の改善方法について発表した。



▲児童と秋田選手の車いすバスケットボール



▲校内のバリアフリーの確認



▲校内の掲示物

#### ②垂井町内における福祉を学ぶ活動

～手話について、手話の実習、視覚障がいや聴覚障がいについて、地域の方を招いた授業～

視覚障がい者から、点字について教わって体験をしたり、手話を入れた歌を発表したりして、福祉について学んだことを全校児童に広めた。



▲手話を取り入れた歌の発表



▲展示の体験

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現力…複数の情報発信(表現)の方法から適切なものを選択し表現する力</li> <li>・社会参画力…地域社会の一員として主体的に課題解決について発信する力、</li> </ul>
効果	<p>学習の成果の広報や発表で、写真を使った掲示を作成したり、児童が作成したプレゼンテーション資料を大きく拡大印刷したりしたことで、タブレット端末上で見ていた資料や作品を、大きい画像で長期にわたって提示することができ、福祉に対する児童の意識を高めることにつながった。</p>
今後の方向	<p>4年生の総合的な学習の時間のテーマを「福祉」と決め、前年度の4年生が学んだ成果や課題をふまえて次年度の学習課題を決めるようにして、学習の質を高めていく。また、地域の方との交流によって学ぶ機会を増やし、地域に発信する活動も増やしていく。</p>

## 11 池田町立宮地小学校

学 校 名	揖斐郡池田町立宮地小学校 (校長 松永 千夏)
活動の種類・単位	自然災害時および不審者遭遇時における訓練を全校で取り組んだ
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間、行事

### 1 活動テーマ

自他の生命を尊重し、日常生活を安全に過ごすことのできる子の育成

### 2 主な活動内容

#### (1) 土砂災害を想定した命を守る訓練

- ・本校は、学校のすぐ西に池田山がある。そこで6月の大雨が降る時期の前に、土砂災害を想定した命を守る訓練を実施する計画を立てた。
- ・高学年の児童については、この訓練の2日前に防災出前教室を行った。講師の説明や映像から「土砂災害が起きる仕組み」「起きた時の対応の仕方」「災害に備えて自分や家族ができること」について学んだ。
- ・命を守る訓練当日は、宮地保育園の園児と保育士も避難してきた。全員が校舎の3階へ垂直避難をした。
- ・訓練に際して、地域の防災士3名も来校し様子を参観していただいた。避難終了後、児童は体育館に集まり、防災士より避難の仕方について講評をいただいた。



▲避難の様子

#### (2) 下校時における不審者と遭遇した場合の命を守る訓練

- ・これまでは校内に不審者が侵入した場合の訓練を行ってきた。しかしここ数年、通学中の声かけ事案がどの地域にも多発している。よって今年度は下校時に不審者が襲ってきた場合の対応訓練を行うことにした。
- ・下校中の不審者役は、各分団のPTA支部役員に協力を願った。そして、支部役員を通じてこの訓練に協力依頼できる子ども110番の家を探していただいた。
- ・訓練当日の下校前に、警察署の方に不審者と遭遇した場合の身の守り方を教えていただいた。その後、各分団ごとに練習する時間をとった。分団担当教員が子ども110番の家の役となり、分団長が「いつ・どこで・どのような人物が・何をしたか・学校に連絡してほしい」という旨を伝える練習をした。
- ・実際の訓練では、不審者役となった支部役員が児童に声をかけたり手をつかんだりした。児童は大きな声で助けを求め、防犯ブザーを鳴らしながら子ども110番の家に逃げ込んだ。分団長は自分の役割を果たし、子ども110番の家から学校へ電話連絡をしていただいた。



▲訓練の様子

子供たちに付いた力	自分の命は自分で守ること
効果	特に不審者対応の訓練については、地域の方に協力を願ったことで、子ども110番の家が留守がちであったり、通学路から離れた場所であったりすることが、事前の調査で分かった。新たに子ども110番の家に登録をしてもよいと申し出てくださる方がいて、学校として大変心強く感じた。また、普段はお守りのようにつけている防犯ブザーが電池切れで鳴らなかった児童もあり、日頃の点検の必要性を実感することができた。
今後の方向	自然災害時における命を守る方法は今後も続けていく必要がある。また、地域の安全についても年に1度は見直すために、下校時における不審者対応訓練は次年度も行う。

## 1 2 郡上市立相生小学校

学 校 名	郡上市立 相生小学校 (校長 武藤 哲文)
活動の種類・単位	【健康・安全】全校 【奉仕(福祉)】 5年
教育課程上の位置付け	学校行事・総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

【健康・安全】身の回りにある危険に気付き、自ら考え判断し、命を守る行動をとる子を育てる。

【福祉(奉仕)】福祉に関わる体験活動を通して、相手の立場や気持ちに気付き、自分にできることを考え行動する子を育てる。

### 2 主な活動内容

#### ①健康・安全

いろいろな災害を想定した命を守る訓練を実施し、それぞれの状況での危険を知り、命を守る行動ができる力を身に付ける。

＜全校で取り組んだ訓練＞

月	訓練	訓練の想定・目的
4月	命を守る訓練	授業中の火災・教室からの避難経路の確認
6月	引き渡し訓練	地域の大きな災害:幼保小中連携による引き渡し訓練
9月	不審者対応訓練	不審者の来校・対応の仕方の確認
10月	命を守る訓練	第1避難場所が危険な場合・第2次避難場所への避難

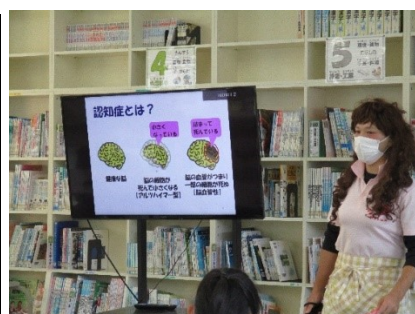


#### ②福祉(奉仕)

外部講師を招いた福祉体験活動を通し、いろいろな立場の人がいることを知り、相手の立場に立って考え、自分にできることを判断して行動する力を身に付ける。

＜福祉体験活動＞

体験活動	活動内容
高齢者疑似体験	高齢者の体の動きにくさを体験
車椅子体験	車椅子を実際に使う体験
視覚障害者による講話	視覚障害の疑似体験と盲導犬への理解
福祉体験レクレーション	相手の立場に立ってできることを学ぶ
福祉体験活動の発表	福祉体験から学んだことを発表



子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な状況に応じた身を守る方法について理解し、危険を回避し、自分の命を守る方法を身に付けた。</li> <li>・様々な人の気持ちを理解し、相手の立場に立って考えることができるようになった。</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き渡し訓練では、スタッフベストを活用することにより、保護者がスタッフの指示にしたがって行動することができた。</li> <li>・テレビモニターを活用して、視覚的に学んだり発表したりすることができた。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より具体的な想定の中で、状況に応じた身を守る行動ができるようにする。</li> <li>・福祉について学んだことをもとに、自分たちにできることを考え行動できる場をつくる。</li> </ul>



### 13 郡上市立那留小学校

学 校 名	郡上市立那留小学校 (校長 増田 英雄)
活動の種類・単位	安全な生活を守るため全校での取組やPTA と連携した取組を行った。
教育課程上の位置付け	行事、その他 (朝活動の時間帯)

#### 1 活動テーマ

防災訓練や防災教育を通して、自他の命と健康を大切にすることができる児童の育成

#### 2 主な活動内容

##### ①命を守る訓練

年に3回命を守る訓練を行っている。今年度は火災発生時、地震発生時、積雪時の災害発生時を想定した訓練を行った。また、休み時間や掃除の時間など、児童が教室以外の場所でそれぞれの活動を行っている時間帯に、予告なしでの訓練も行った。訓練を繰り返し行うことを通して、児童は放送をよく聞き、指示がなくても自分たちで考えて自他の命を守る行動をとることができるようになってきた。教室以外の場所からの避難経路については、どこから避難するとよいか迷う



▲ 命を守る訓練

場面も見られたので、事後指導で、安全な避難経路を考えさせる指導を行うこともできた。

##### ②PTAとの連携

PTAと連携した活動として、引き渡し訓練、救急法講習会、通学路の安全点検を行っている。

引き渡し訓練については、反省をもとに見直しをしながら、年度初めに行っている。その結果、大雨や雷などで下校が困難な場合に、より安全にスムーズな引き渡しを行うことができるようになってきた。救急法講習会は、赤十字社の指導員の方においでいただき、夏休み前に保護者を対象に実施している。また、5月と11月には、親子下校で通学路の安全点検を行い、「安全マップ」の見直しをした。実際に通学路を歩いてもらうことで、危険箇所について確認したり、安全に通学するために気をつけることを親子で話し合ったりすることができ、安全に対する意識を高めることができています。



▲ 引き渡し訓練

##### ③防災教育

防災ショートトレーニングの年間指導計画に沿って、毎月1回、朝活動の時間に「朝なる防災」として防災に関わる指導を行っている。雷、大雨、台風、大雪などについては、それぞれの災害が起こりやすい時期に合わせて指導を行うようにしている。また、地震については、災害発生時の行動、事前の備え、災害発生後の避難等について、何回かに分けて取り上げて指導している。

子供たちに付いた力	災害時の行動や防災の知識を身につけることができた。
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAと連携した活動を毎年行うことで、より安全でスムーズな引き渡しの方法について改善を重ねたり、通学路の安全を守るため日頃から危険箇所への対策を行ったりすることができている。</li> <li>・年間を通して防災教育を進めることで、防災への意識を高めることができています。</li> </ul>
今後の方向	今後も防災教育を進め、自分や周りの人の命を大切にできる児童の育成を推進していきたい。



## 14 郡上市立大中小学校

学 校 名	郡上市立大中小学校 (校長 村瀬 眞実)
活動の種類・単位	命を大切にする活動、地域との連携を大切にする活動に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

ふるさと郡上（白鳥）を愛し、地域と共に生き、高まる学校

### 2 主な活動内容

(1) 生命を大切にする活動…防災トレーニング、命を守る訓練、AED 講習、いのちと平和の授業  
「自分の命は自分で守る」を合言葉に、防災教育の充実を図った。5・6月は「地震災害への備え」、7月は「豪雨災害」、11月は「災害への備え」、1月は「雪害」の内容を学習した。特に本校は土砂災害警戒区域に隣接しているため、命を守る訓練では「垂直避難」を実施した。



▲AED 講習会の様子

また、日本赤十字社岐阜県支部の講師による「親子 AED 講習」を行った。今年度は夏休み前に学校の水泳指導の中で着衣水泳を行うことができた。

夏休みなどに川や海などでの水の事故に遭遇した際に、自信をもって救助活動ができるようにするため、親子で AED 講習を学んだ。「自分の命は自分で守る」という意識を高めた。

さらに、人権教育や命を大切にする教育の推進として、今年度は「いのちと平和の授業」(3～6年生)として地域の方に、戦争体験や「大中忠魂碑」の話平和を願う活動に取り組んだ話を伺ったり、ミニコンサートを鑑賞したりした。人権や命や平和の大切さについて一人一人が真剣に考える良い機会となった。



▲「いのちと平和の授業」の様子

(2) 伝統文化の継承…大神楽 (4～6年生)

校区内には、地域で昔から行われている祭りがあり、「大神楽」が奉納されている。その伝統を継承しようと、4～6年生の総合的な学習の時間の学習計画に位置付けられている。今年度も、地域の方を講師として招き、4～6年生を中心に「大神楽」の歴史、演奏の仕方、舞の仕方などを教えていただいた。また、3年ぶりに運動会の場で4～6年生が「大神楽」を保護者や地域の皆様の前で披露した。



▲運動会での大神楽発表の様子

(3) 豊かな自然や地域の人とのふれあい (4・5年生)

総合的な学習の時間では、4年生は「大中学「長良川から学ぼう」の中で、川に生息する生き物や水や森の働きについて学んでいる。5年生は、大中学「地域から学ぼう」の中で、「森林の学習」「植樹体験」などを実施した。また、福祉体験を通して、地域のために自分たちができることについて探究してきた。今年度も4年生で「森と木と水の環境教育推進事業」を通して、郡上市の保有林や木材加工工場の見学を行い、森林の役割や効果的な利用について学んだ。学習を進めていく中で、子どもたちは、地域の自然の豊かさと尊さに気づいていった。また、学習の講師として、地域の方にお世話になり、生活の知恵と共に地域の人たちのやさしさに接することができ、ふるさとへの愛着の高まりを見ることができた。

子供たちに付いた力	防災教育では具体的な状況を想定して自分の取るべき行動について考えること、ふるさと教育では地域のよさを感じることができた。
効果	「命を守る訓練」等、意欲的に取り組むことができるようになった。住んでいる地域のよさを認め、愛着をもつようになった。
今後の方向	学校教育と地域のコミュニティとの連携をさらに深め、ふるさと教育の充実を図りたい。

## 15 郡上市立北濃小学校

学 校 名	郡上市立北濃小学校 (校長 長谷川 哲也)
活動の種類・単位	福祉活動について、4年生が中心に学習に取り組んだ。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

体験活動をととして、福祉・介護に関する内容について理解し、その必要性と具体的な操作技能を学ぶ。

### 2 主な活動内容

#### ① 認知症学習

北濃小学校の児童は、祖父母との同居、あるいは近所に住んでいる家庭の率が比較的高いと思われる。また、日頃の家庭生活以外にも見守り隊として、日々、児童の登下校の安全に携わってくださる方が多い。こうした実態も踏まえ、将来の高齢化社会が自分自身の身近な問題として降りかかってくる実情を受け止めて、高齢者の認知症についての理解を深め、さらに、認知症を患った方との接し方がどのようにあるべきか、を学んだ。

#### ② 手話の学習

校区の中には、コミュニケーションを取る際に手話を必要とするケースはほとんどない。しかし、今後の社会のあり方を学ぶ中で、手話による相互理解の手段を学ぶことの重要性を理解することができた。当日は、手話サークルの方々に来校いただき、手話の基本的な成り立ちから日常会話に利用される手話の手指や腕の動き方の講習を受けた。

#### ③ 車椅子体験

車椅子を必要とする方々の困り感をつかむことはむずかしくない。しかし、身体に障がいを持つことで人にはどんなストレスが生まれるのか、を分類して理解することによって、現在の社会には多様な車椅子が開発され、利用されていることに大きな驚きを感じていた。また、実際に車椅子に乗ったり、介助の操作をしたりする体験をととして、言葉だけでは伝わらない相手への優しやや思いやりの必要性を実感することができた。



① 認知症学習の場面



② 手話学習の場面



③ 車椅子体験の場面

子供たちに付いた力	人が快適に生活をしようとする社会の中で、たくさんの障がいがあることを知った。また、さまざまな障がいによりそれぞれの不便があることに気づいた。
効果	身近な学校生活の中(今までの学校や教室の環境)を見直した際に、段差解消のスロープや障がい者用トイレのスライド扉など、漠然とみていた部分の意味を考える児童が増えてきた。
今後の方向	今年度は多様な障がいに対する学習機会を設けることができた。来年度も地域の理解と協力を得て、同様の学習機会を企画・準備できるよう働きかけていく。

## 16 美濃加茂市立伊深小学校

学 校 名	美濃加茂市立伊深小学校 (校長 宮西 祐治)
活動の種類・単位	健康安全をテーマとして、全校と家庭・地域が連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	教科 (保健体育)、学校行事

### 1 活動テーマ

テーマ:子供たちが「安心して学ぶことができる 安全な学校」を目指すために、すべての命を守り切ることを目指して「防災教育」を実践する。

ねらい:さまざまな災害等を想定した「防災教育」を計画的・継続的に実施することで、子どもたちの防災への意識の高揚をさせるとともに、防災のために必要な行動を教える。

### 2 主な活動内容

#### (1) 防災講話・防災体験学習 (9/28)

はじめに全校児童と保護者を対象とした「防災講演会」を開いた。岐阜大学の村岡治道先生を講師に招聘して、「災害のおそろしさ」について話していただいた。次に、3～6年生の児童を対象として「泥沼避難体験活動」を実施した。事前に伊深町の町づくり協議会の方に依頼して、畑地を土砂災害時の想定で泥沼に仕立てていただいた。体験では、児童が泥沼の中を歩行する活動を体験した。この活動を通して、地盤の見えない液化化した地面を非難する大変さを味わった。この2つの活動を通して、子どもたちは、危険予測の必要性和迅速な避難行動をとることの大切さを理解することができた。



▲泥沼避難体験活動

#### (2) 「親子防災教室」(10/4～21)

事前に校内の教職員を対象として、防災教育研修 (8/1) を実施した。この研修では、美濃加茂市の防災安全の担当者を講師に招き、市の防災の実際を学んだ。これをもとに、10月4日には、全校朝会で「防災学習」について指導をした。防災学習では、大気的不安定なとき、台風の時の危険と避難行動について教えた。その後、在宅型家庭教育学級として「親子防災教室」を実施して、在宅時に大雨や台風などによる災害の危険性が高まったときの避難について親子で話し合う機会をもった。話題は、自宅周辺の危険性の把握、防災や避難のための行動、避難場所と携行するものなどについてである。



▲防災講演会

自宅周辺の地形を意外によく知っていて、台風や大雨の際の危険性についても考えることができました。日頃から、話題にしたり自宅周辺を歩いたりしておくことが大切だと思いました。ただ、これまで避難するまでの事態になったことがなく、避難時も持ち物については、十分な知識と準備ができていません。そこが課題であることも分かりました。

このように、学校と家庭や地域が連携した防災学習を進めることができた。この2つの活動の他にも、起震車体験、様々な状況を想定した「命を守る訓練」の実施を進め、災害や防災の理解を深めて、危険の予測や回避のできる児童の育成を図った。

子供たちに付いた力	防災に関する基本的な知識と、災害から身を守るために考えて行動する力が身に付いた。
効果	様々な状況を想定した「命を守る訓練」や親子防災教室を通して、児童と保護者の防災への意識を高めることができた。
今後の方向	今後も防災教育を推進する。地域の防災訓練との連携を図り、現実に応じた避難訓練や災害時の対応についての学ぶことができるようにする。



## 17 可児市立土田小学校

学 校 名	可児市立土田小学校 (校長 奥村雅人)
活動の種類・単位	国際理解・親善
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間

### 1 活動テーマ

「国際教室における日本語指導の在り方について」

～日本で育ち、日本語で学べるライフコース作りのために～

### 2 主な活動内容

(1) 外国籍児童への個別指導を通して、日本での学校生活の在り方や文化を学ぶ。

(実践) 学校生活を送る上で、最低限必要とされる日本語指導を少人数で実施している。カードや絵、図、身振り手振り等を使った具体的な指導を行った。右写真は、学校で学ぶ教科名を漢字とひらがなのカードにしたものを用いて、組合せを考えながら覚えている授業風景である。



▲ 日本語初期指導の様子

(2) 外国籍児童への個別指導を通して、算数や国語の学習の充実を図る。

(実践) 通常学校で行われる国語と算数の内容を焦点化し、低学年、中学年、高学年の3つの国際教室を設置して、外国籍児童を抜き出して指導している。漢字や音読、算数用語などは、何度も繰り返し声に出したり練習したりして、定着を図った。また、具体物や半具体物を活用し、意味理解までできるような指導方法を工夫した。

(3) 総合的な時間の学習を通して、フィリピンやブラジルの文化などを紹介する。



▲ 総合的な学習のまとめの掲示物

(実践) 同じ教室で学んでいるが、まだまだフィリピンやブラジルの文化などお互いの国々に対する理解は十分とは言えないのが現状である。そこで6年生は、総合的な学習の時間に、外国籍児童への質問事項を考え、その内容に答えてもらう活動を仕組み、交流を行った。左写真は、外国籍児童の総合的な学習のまとめである。それぞれの国の歴史や食べ物や流行していることなど質問内容の回答や補足説明、発表したことなどが記載されている。日本と比較して分かったことや感想なども一緒にまとめられている。

子供たちに付いた力	様々な国の文化や習慣を比較し、多面的多角的な視野で見つめる力
効果	自分のよさや可能性を一人一人の児童が自覚するとともに、仲間を価値ある存在として認め、今後も協力して学校生活を送っていこうとする気持ちが育った。
今後の方向	外国籍児童の割合が全校児童の約30%を占めることを本校の特色として捉え、お互いのよさを認め合い協力しながら高め合えるよう、国際理解教育の一層の充実を図っていこうと考えている。



学 校 名	七宗町立神淵小学校 (校長 木村 正男)
活動の種類・単位	健康・安全、奉仕(福祉)の活動に全校児童が連携して取り組んだ。
教育課程上の位置付け	特別の教科道徳・特別活動・総合的な学習の時間・生活科

## 1 活動テーマ

相手の立場を理解し、認め励まし合って、生活を高めようとする子の育成

## 2 主な活動内容

### (1) 各学年の発達段階に合わせた系統性のある授業実践

<道徳> ジェンダー教育

○低学年「すきないろなあに？」

白Tシャツのイラストを好きなように色塗りし、完成したものを交流した。

○中学年「4つの性」

アメリカ・セントラルパーク動物園での実話から生まれた絵本「タンタンゴはパパふたり」を読み、感想を交流し合った。

○高学年「LGBTQとは？」

LGBTQの言葉の意味と4つの性について学び、みんなが過ごしやすい社会のために自分ができることを考えた。

<特別活動> ソーシャルスキルトレーニング

毎月1回、ソーシャルスキルトレーニングとして、各クラスの実態に合わせた内容を全校一斉に行った。

### (2) 相手意識を育むための委員会を中心とした全校での取組

計画委員会を中心にあたたかいことばがけを意識して使ったり、見つけたりする「ふわふわ言葉キャンペーン」を行った。

### (3) 地域の高齢者や園児との交流活動

低・中・高学年に分かれ、地域の高齢者施設を訪問した。また、1年生と6年生が保育園児との交流活動を行った。

### (4) 縦割りグループによるなかよし遊びの取組

6年生をリーダーとした縦割りグループによるなかよし遊びを、月1回ほど継続して行った。また、縦割りグループによる遠足、登山も実施した。



▲ソーシャルスキルトレーニング



▲「ふわふわ言葉キャンペーン」



▲なかよしふるさと登山

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで協力し合って、学級や学校の生活を楽しくしようとする力</li> <li>・相手のことを思いやり、進んで親切にする力</li> <li>・生命がかけがえのないものであることを理解し、尊重する力</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジェンダー教育に触れ、「男のくせに」「女らしく」など普段何気なく使ってきた言葉が誰かを傷つける言葉であると理解し、意識するようになった。</li> <li>・SSTを行うことで、相手を意識した行動や言動が多くみられるようになった。</li> <li>・「ふわふわ言葉キャンペーン」を行うことで、学年を超えたあたたかい言葉がけが多く見られた。また全校集会を行ったことで、あたたかい言葉かけの良さを共通理解することができた。</li> <li>・地域の高齢者施設や保育園と交流を行ったことで、身近な人とのあたたかな人間関係を育むことができた。</li> <li>・縦割りグループでの活動を行ったことで、学年を超えた交流が行われ、高学年が下級生を気にかける姿が多くみられるようになった。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの「ふわふわ言葉」を使うことができる良さがあ一方、きつい言葉遣いを平気でしてしまう姿も見られる。児童会を中心に「ふわふわ言葉」だけでなく、言葉遣いやあいさつについても継続的に取り組んでいく。今後ジェンダー教育とともに多文化共生の教育についても、発達段階に合わせた指導を計画していく。</li> </ul>

学 校 名	加茂郡七宗町立上麻生小学校 (校長 安藤 由美子)
活動の種類・単位	「命と平和・友情」の大切さについて主体的に考える子の育成 (人権・平和)
教育課程上の位置付け	特別活動

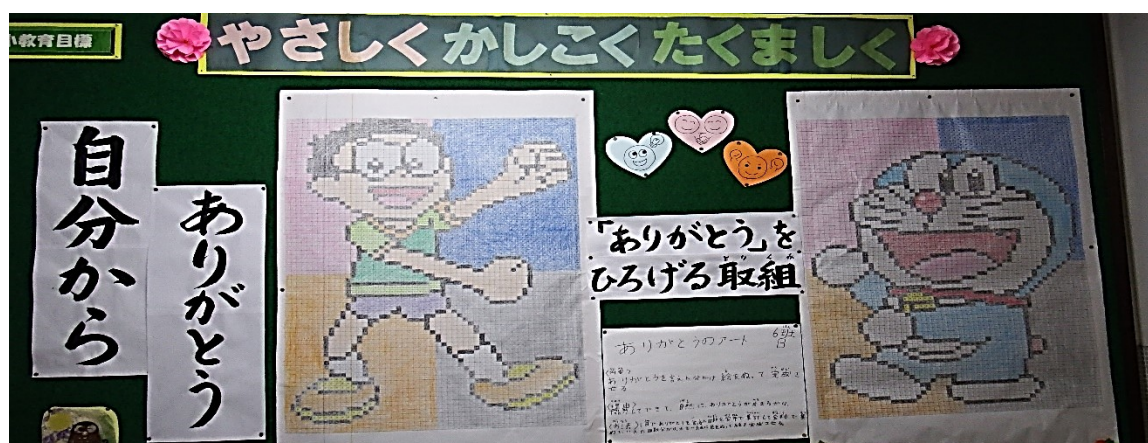
### 1 活動テーマ

- ・本校の特色である「平和・友情宣言」を見つめ直す活動を通して、人権意識を高め、学校課題(仲間のよさを認め合える集団づくり、自治力の育成)の解決を図る。
- ・「ありがとう」を広げる取組について考える活動を通して、仲間とのよりよい関係づくりを意識し、目標達成のために力を合わせて行動しようとする気持ちをもつ。

### 2 主な活動内容

#### 【『ひびきあい活動』を軸にした取り組み】

- (1) 児童委員を中心にして、『①だれにでも気持ちのよいあいさつをします。②ともだちとなかよくします。③「ありがとう」をひろげます。』という上麻生小学校「平和・友情宣言」について、全校で振り返り、現在までの成果と課題を明らかにした。そして、さらによりよくしたい宣言『③「ありがとう」を広げます』を選んだ。
- (2) 「ありがとう」を広げられるよう、12チームの縦割りグループで、活動のアイデアを話し合った。12の活動案が考えられ、それを全校児童に伝えられるよう、1階の廊下に掲示した。そして、理由もはっきりさせながら、適切だと思う活動案に投票を行った。投票の結果、4つの活動案に絞られた。
- (3) 12月の「ひびきあい集会」では、選ばれた4つの縦割りグループが、活動案の詳細をプレゼンテーションし、活動の内容について全校で質疑応答しながらみんなで取り組む活動を決め出した。そして、「ありがとうのアート」に決定した。
- (4) 『ありがとうのアート』の取組は、自分からありがとうを伝えられた回数を記録し、その回数分だけモザイクアートの色を塗っていくという取組である。取組が進むにつれて、学校内で「ありがとう。」の声がよく聞こえるようになり、モザイクアートの色が増えていくことで、意識をして生活する姿に高まりが感じられた。



子供たちに付いた力	・自分たちで考える力と、自分たちで考えたり選んだりしたからこそ、主体的に考えたり取り組んだりする力が育った。
効果	・「ありがとう」を広げる取組を軸に、地域の方に感謝する活動を通して、様々な場面で自然に感謝の言葉を伝える児童の育成につながった。
今後の方向	・長年、取り組んできた「平和・友情宣言」の形骸化を防ぎ、改めて自分たちの宣言であるという意識を高めることができた。今後は、更に子どもたちが主体的に活動する取組を目指していきたい。

## 20 八百津町立八百津小学校

学 校 名	八百津町立八百津小学校 (校長 梅村 玉祈)
活動の種類・単位	人道精神 (思いやりの心) を育み、地域に発信した。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間・その他 (常時活動において)

### 1 活動テーマ

郷土の偉人、杉原千畝氏の人道精神を受け継ぎ、思いやりの心をさらに育てる。

### 2 主な活動内容

#### (1) 児童会の取組

##### ○児童会スローガン「あいさつ・美・思いやり ～いつでも手本になれるように～」

今年度のスローガン達成に向けて、児童会の各委員会が中心となって常時活動を行ってきた。朝に、執行委員が玄関に立って児童にあいさつをしたり、下足箱の靴揃えの呼びかけや毎週木曜日には職員室前を掃除したりするなど、美しい学校を目指して活動してきた。また、執行委員が中心となり、あいさつから思いやりを伝えようと、毎日のお昼の放送でよい姿を紹介した。

#### (2) 八小思いやりプロジェクト

1 1月には『思いやり』をテーマに『ひびきあい活動』を位置付け、全校生徒で活動した。主な取り組みとして3つのプロジェクトに子どもたちは取り組んだ。

##### ○プロジェクト1

各児童が、委員会や係活動において、『仲間のために自分ができること』を一人一人考え、活動した。仲間を思い活動する心を育てることができた。

##### ○プロジェクト2

仲間の良さを見つけ、カードに記入、掲示した。(ほかほかハート掲示)  
お互いに仲間の良さを見つけ合うことで、認め合い、尊重し合う心を育てることができた。



▲ほかほかハート掲示

##### ○プロジェクト3

全校合唱として取り組んでいる『OMOIYARI の歌』を手話を交え合唱することによって、心も伝わる、伝える心を育てることができた。

#### (3) 杉原千畝氏人道創作劇「イエフダーと七つの灯」の上演

本校では、人道学習のまとめとして、杉原千畝氏オリジナル人道創作劇に取り組んでいる。

平成28年度には、「ふるさと教育岐阜フェスタ2016」の出演依頼をきっかけに、岐阜清流プラザ総支配人、小島紀夫プロデューサーのもと、シナリオが一新

された人道創作劇「イエフダーと七つの灯」が誕生した。人道創作劇の取組を通して、人道精神を育み、地域に発信、広めることが本校の役目ととらえ取り組んでいる。

今年度は、八百津町ファミリーセンターの大ホールを会場とし、5. 6年生45人が人道創作劇を演じ、杉原千畝氏の人道精神を保護者の方に発信することができた。



▲「イエフダーと七つの灯」  
人道創作劇上演

子供たちに付いた力	全校児童が、自分の行動を見つめ直しながら、周りのことを思ってよりよく行動しようとする心を育てることができた。
効果	他者意識をもつことにより、自分と同じように仲間のことも大切に思う心を育むことができた。郷土の偉人、杉原千畝氏の功績について深く学ぶ機会ともなった。
今後の方向	人道創作劇の上演について、参観者をコロナ前のように地域の方々にも広げ、杉原千畝氏の人道精神を広めていくとともに各関係機関との交流を深めていきたい。



## 21 御嵩町立上之郷小学校

学 校 名	岐阜県可児郡御嵩町立上之郷小学校（校長 遠藤 美和）
活動の種類・単位	健康安全にかかわって、防災について全校児童が保護者や地域防災リーダーと共に考え、実践した。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間 社会科 特別活動

### 1 活動テーマ

#### 自分の命は自分で守る子

～自他の命を尊重し、主体的に判断し、安全のための行動ができる児童を目指して～

### 2 主な活動内容

#### ① 防災学習の実践

全校の取組として月1回の「ぼうさいかみのごう」の時間、学級活動を通して、防災や減災についての知識を学び、命を守るためにはどうすればいいのかを考え、主体的に判断をし、よりよい避難や備えについて具体的に考え、実践に結び付けた。

さらに4年生では、避難所シミュレーションや体験活動を行った。避難所シミュレーションでは、防災リーダーになったと仮定して「人数より少ない食料が届けられたらどうするか」について、また、避難所を利用する立場になって「避難する時にペットを連れていくか」について考え、話し合った。その際、オンラインで宮城県仙台市の学校職員とつなげて、東日本大震災での実際の避難所の様子や困ったこと等が子供たちに伝えられた。その他、御嵩町防災コミュニティーセンターで地域の防災リーダーと町の総務防災課の方々に教わりながら避難所体験や防災体験を行った。（図1）また、1～4年生では、大きな地震が起こったらどうするかについて、教室や特別教室ではどんな危険があるのか、その危険を避けるためにどこでシェイクアウトをすればよいかを考えた。（図2）1年生は教室、2年生は図書館、3年生は図工室、4年生は理科室について、それぞれの教室で、どのように行動すればよいかを話し合った。

#### ② 親子防災教室の実施

防災リーダーによる親子防災教室では、学校ぐるみで防災・減災への意識を高めた。防災リーダーからの問題提起を受けて、家の中の危険な箇所について図に描きながら親子で話し合った。（図3）その後、帰宅しすぐに取り組める目標を決め、実践につなげた。6年生の或る家庭では、冬の時期に停電が起きた時に対応できるよう話し合い、食料等の備えをした。



▲ 防災教室での避難所体験



▲ 図書館での危険な箇所見つけ



▲ 親子防災教室での話し合い

子供たちに付いた力	災害に対し、どのような行動をすればよいかを判断する力、様々な場合を想定しつつよりよい考えを見出そうとする力がついた。
効果	子どもたちどうしや親子・兄弟と一緒に考えたり、話し合ったりすることによって、課題を自分事として考え、実生活を見直し改善するよう保護者に働きかけることができた。
今後の方向	今年度の取組によって、子供たちや保護者の防災・減災についての意識をさらに高めることができた。今後は、さらに子供たちが保護者や地域に発信する機会や場を設定し、より主体的に考え、行動する力をつける。

## 22 土岐市立妻木小学校

学 校 名	土岐市立妻木小学校	(校長 工藤 剛士)
活動の種類・単位	健康・安全（もりもり健康委員会を中心に全校にて実施）	
教育課程上の位置付け	朝活動の時間（すこやかタイム）	

### 1 活動テーマ

- ・ 歯みがきカードや歯ブラシチェック、お口の健康標語を考えることを通して、歯と口の健康について考えることができる。
- ・ 感染症を予防するにはどんなことが効果的か考え行動することができる。

### 2 主な活動内容

#### <歯と口の健康>

- ・ 6月と11月に歯みがきがんばり週間を行い、歯みがきカードをもとに歯みがき名人を任命したり、歯ブラシが自分に合ったものなのかを確認したりした。
- ・ 歯みがきがんばり週間で、今年度は新しく、お昼の放送で歯に関するクイズを行った。委員が歯に関する様々なクイズを探し、全校のためになるものを選びビデオ放送を行った。
- ・ 冬休みの歯みがきカードに載っている「お口の健康標語を作ろう」で集められたお口の健康標語を委員がどんな基準で選ぶか話し合い、お口の健康標語大賞を各学年から2人選出した。お口の健康標語大賞に選ばれた13人には、委員がクラスに表彰を行った。



▲ 歯ブラシチェック



▲ お口の健康標語大賞表彰式

#### <感染症予防>

- ・ 前期の委員会では、手洗い石けんのアルボースがどのくらい減っているかを1ヶ月間測定し、「もっと石けんを使って手洗いをしてほしい」という思いをもち、石けんを使って手を洗おうというポスターを作成した。作成したポスターは、各手洗い場に掲示した。
- ・ 後期の委員会では、冬は寒くて手洗い消毒が減少することに着目し、消毒を促進するポスターを作製した。消毒ポスターはただ掲示をするだけでなく、各クラスにお知らせに行き、今まで以上にしっかり消毒を行ってもらうように伝えた。この消毒ポスターは、各クラスの消毒が置いてある入り口に掲示している。



▲ 消毒ポスターのお知らせ

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯みがきがんばり週間によって口腔内を健康に保つために歯みがきをする意識</li> <li>・ 忘れずに手洗い消毒を習慣</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委員会を中心に、主体的に様々な活動に取り組むことができた。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで行っていた活動だけではなく、必要だと思う活動を主体的に考え、学校だけではなく、家庭でも実践していくことができるようにする。</li> </ul>

## 23 恵那市立恵那西中学校

学 校 名	恵那市立恵那西中学校 (校長 楯 博子)
活動の種類・単位	奉仕(福祉)、全校生徒が取り組む活動
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間・特別活動

### 1 活動テーマ

基礎基本を身につけ、粘り強く、やりぬく生徒の育成 ～自立、共生、貢献をめざして～

### 2 主な活動内容

#### (1) 学校花壇の定植を通して、花いっぱい为学校づくり

委員会の生徒や特別支援学級の生徒が、学校花壇を利用して季節に合わせた花壇づくりを行った。

春にはマリーゴールドやベゴニアを、秋にはビオラやパンジーを植え、年間を通して花壇を整えてきた。毎日の水やりや草取りなど、仲間と協力して花壇づくりを行う中で、自分たちの手で美しい学校をつくる喜びを味わうことができた。



▲花壇づくりのようす

#### (2) 特別支援学級 配膳台カバーづくり

特別支援学級の生徒が、自分が所属する交流学級の配膳台カバーをつくり、各学級にプレゼントをした。交流学級の配膳台カバーを見た特別支援学級の生徒が「新しく作ってプレゼントをしたい」と担任に申し出て実現させた活動である。この活動を通して、よいと思ったことを進んでやることよさや仲間と助け合って取り組むことの大切さを学ぶことができた。



▲配膳台カバーづくり

#### (3) WWA 仲間と共に粘り強く歩ききる

Weston Walking with Aketetsu III (通称: WWA) は、「コロナ禍でも何かできる学校行事はないか?」と、生徒、先生、PTAが考え、2020年から始まり今年度で3回目を迎えた恵那西中の恒例行事である。「地域を知ること」と「仲間とやりきること」をねらいとして4月28日(木)に実施した。生徒たちは恵那駅から岩村駅まで明知鉄道で移動し、岩村駅から恵那西中まで約14kmの道りを仲間と協力して歩ききった。地域自治区のみなさんが交通安全ボランティアとして道中の安全を見守ってくださったり、PTAのみなさんがゴールでおやつを準備して待っていてくださったりと、生徒、家庭、地域が一体となって取り組むことができた。さらに、今年度は、生徒の発案で道中のゴミを拾いながら歩くなど、自分から地域に貢献していこうとする姿も見られ、充実した活動となった。



▲WWA (明知鉄道&Walking)

子供たちに付いた力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花や野菜など植物に親しみ、愛情を込めて栽培する意識を高める。</li> <li>・学校や地域の一員として、よりよい学校、社会づくりに貢献する態度を育てる。</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい環境を進んでつくっていこうとする姿が増えた。</li> <li>・集団の一員として、自ら役割を果たし、貢献していこうとする姿が増えた。</li> </ul>
今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花や野菜など植物に親しみ、美しい環境を自らつくる意識を高める。</li> <li>・地域の一員として、よりよい学校、社会づくりに貢献する態度を育てる。</li> </ul>



## 24 下呂市立竹原小学校

学 校 名	下呂市立竹原小学校 (校長 黒木 和実)
活動の種類・単位	大地震発生時に自ら考え行動できる力を育む命を守る学習
教育課程上の位置付け	特別活動 (命を守る学習)、その他 (休み時間、清掃時間、帰りの会)

### 1 活動テーマ

自ら考え判断し、行動できる児童の育成 ～毎月の命を守る学習を通して～

### 2 主な活動内容

#### (1) 月1回のシェイクアウト訓練の実施と振り返り

- ① 毎月のシェイクアウト訓練実施について、全職員で以下の願いを共通理解し、実施した。
- ア 本校は、阿寺断層上に位置することを踏まえ、震度5以上の大地震によって大きな被害が出ることを想定し、児童自身が、自分で考え判断し、行動できるようにする。
  - イ 「落ちてくるもの・倒れてくるもの・動いてくるもの」をキーワードとして、咄嗟の判断がしつかりとできるようにする。
  - ウ いつ、どこで起こるか分からないこと、特に、先生がいない場所や自分一人しかいない時もあることを児童が理解し、どんな時でも自分で判断して、自分の命を守ることができる。

#### (2) 年3回の命を守る学習の実施と振り返り

- ① 児童の不安感を意識して想定を変化させる。
- ア 担任がいる授業時間に実施し、潜り込める机がある場合を想定し、決められた避難経路で避難する。
  - イ 担任がいる授業時間に実施し、潜り込める机がない特別教室を想定し、その場所から避難経路を使って避難する。
  - ウ 担任がいない休み時間や掃除時間に実施し、放送等の指示に従って安全に、確実に避難する。

#### (3) 訓練の実際

4月15日	授業時間 (通常教室) に地震 → 地震発生のため運動場へ避難
5月16日	授業時間 (特別教室) に地震 (1分間) → 帰りの会で振り返り
6月15日	掃除の時間に地震 (1分間) → 帰りの会で振り返り
7月15日	掃除の時間に地震 (1分間) → 帰りの会で振り返り
9月 6日	休み時間に地震 → 火災発生のため運動場へ避難
11月 2日	休み時間に地震 (事前通告なし・1分間) → 帰りの会で振り返り
12月15日	休み時間に地震 (事前通告なし・1分間) → 帰りの会で振り返り
1月16日	掃除の時間に地震 (1分間) → 帰りの会で振り返り
2月13日	(予定) 休み時間に地震 (事前通告なし) → 地震発生のため運動場へ避難
3月15日	(予定) 休み時間に地震 (事前通告なし・1分間) → 帰りの会で振り返り

【写真】自ら考え行動した姿 (左: 動かないものにつかまる 中: 持っていた物で咄嗟に頭を守る 右: 壁から離れる)



子供たちに付いた力	・「落ちてくるもの・倒れてくるもの・動いてくるもの」を自ら見分ける力
効果	・自分の命を自分で守るためには、自分で考えて行動しなければならないと気づいたこと。 ・「落ちてくるもの・倒れてくるもの・動いてくるもの」を確認することが日常化したこと。
今後の方向	・登下校中や休日など、周りに大人がいない時の避難方法について考えさせたい。 ・大きな地震の際にどのような状況になるのかを起震車などを活用して実感させたい。 ・「訓練」だからと、決められた行動をとるのではなく、「命を守る学習」として自分の頭で考える時間を、今後も毎月確保していきたい。





ち  
か  
い

わたくしは

青少年赤十字の一員として

心身を強健にし

人のためと郷土社会のため

国家と世界のために

つくすことをちかいます

2022年度

岐阜県青少年赤十字研究推進モ二夕一校活動事例集

令和5年4月1日発行

日本赤十字社岐阜県支部

〒500-8601 岐阜市茜部中島2-9

TEL (058) 272-3561 FAX (058) 274-6938